

団体	Sayama Second Stage
----	---------------------

(1) 概要

日時	2017年 9月15日 18時30～20時30分 (入間川・狭山台地区編)
場所	中央公民館 第2ホール
参加人数	37名
講師	合同会社 Active Learners 共同代表 山ノ内 凜太郎 ・ 米元 洋次
テーマ ゴール	自分の地区の課題はなんだろう 「自分の地区の未来に向けて今やることがハッキリしている!!」
流れ	マインドセット⇒自己紹介アイスブレイク⇒個人ワーク⇒グループワーク⇒全体共有⇒ふりかえり

(2) 報告事項

グループワークから拾った意見 (箇条書き)

○・・・地区住民で解決 ●・・・外部の協力が必要

【1. 入間川地区】

〈すぐ解決すべき〉

- 商店街の衰退
- 空き家が増えていく
- 戸建ての管理ができていない
- 犬のふんが多い
- 集合住宅のゴミ出しルールが守られていない
- 高齢者と子どもたちが交流しにくい
- 世代間交流がない
- 地域のつながりが希薄である
- 自分のマンション住人の顔が分からない
- 自治会に入っていない人が増えている
- 挨拶する人が少ない
- 年寄りがなかなか言うことを聞かない
- シニア世代の元気がない(特に男性)
- 高齢者が歩いて行ける距離に集まれる場所がない
- 高齢者が買い物できる小売店が少ない。スーパーまで遠い
- 高齢者が自治会をやめたがっている
- 高齢者の孤立化
- サークルのリーダーが次世代にいない
- サロンに参加する顔ぶれが同じ
- 各地域単位のサロンが少ない
- お父さんの参加が少ない
- 若い世代が狭山市に住みたいと思わない
- 若い世代が街を歩いていない
- 若い世代が地域活動(祭り)に参加しない
- 若い世代が交流できるサロンがない

○子どもはたくさんいるが、子ども同士の輪に入っていない

～解決への糸口～

○空き家をたまり場に

○自治会に子育て世代が加入しやすいようにする

○会員みんなが楽しめる自治会作り

○防災訓練にて子どもたちに役割を持たせる

○無関心の街からの脱却

●バス通りが狭い・混雑

●バスの便数が少ない(鶯ノ木地区)

●病院・市役所へ出かけるのが大変

●病院が少ない

●子どもたちが思いっきり遊べる公園がない

●通学路の安全確保

●不審者が多い

●公園に健康遊具がない

●若い世代・ママ世代が気軽に集まれる場所がない

●なかなかSOSが出せない

●市民に対しての情報が偏っている(子どものいない世帯への情報は少ない)

●イベントがつまらない

●働く世代が地域活動に参加するきっかけがつかみにくい

〈ゆくゆく解決すべき〉

○防災拠点の整備

○何をするにも基がない

○入間川をはさんでいるためか狭山市の一体感がわからない

○地域の魅力を市民が共有できていない

○自治会加入をすすめる工夫

○独居者の把握

○一人住まいの高齢者がどこへ行ったか分からない

○新旧住民の交流がない

○集合住宅・マンション住人のコミュニケーションが希薄

○自治会・子ども会の役員を引き受けてもらえない

○子ども達が成長すると狭山市から出ていく

○入間川で遊べない

～解決の糸口～

○誇りにしたい有形の何かをつくる

○自治会加入のメリットを伝える

○駅周辺に小さな公園を増やす

○地域福祉の拠点を増やす

○地元野菜の小さな直売所を増やす

○オレンジサロンを増やす

- 狭山市駅前のにぎわい不足
 - 空き家・空き店舗が多い
 - 狭山市駅周辺に美味しいお店が少ない
 - 若い世代が立ち寄りた店がない
 - 個人商店がなくなってきている
 - 狭山市の顔となるようなものがない
 - 七夕通りの再生
 - 自転車が安全に走れない
 - 運動する設備が少ない
 - 入間基地が別世界
 - 中学校への通学が遠い
 - 買い物が不便
 - 「茶の花号」のルートが、西武バスのルートとほぼ一緒
 - 子どもが安全に遊べる場所がない
 - 畑・公園がなくなっていく
 - 昼間に人がいない
 - 高齢化
 - 子どもが少ない
 - 親世代と子世代の同居率が低い
 - 行政→地域へのおしきせがみられる
- ～解決の糸口～
- 近い場所で働けるところがあるようにする
 - 一人一人の所得を上げるようにする
 - 車がなくても住みやすい街にする
 - 子育て世代が気軽に相談できる場をつくる
 - 互いに無理のない共存ができるようにする

【2. 狭山台地区】（3グループのうち1グループは独自の分類のためカウント不可）

〈すぐ解決すべき〉

- 高齢化が進んでいる
 - 高齢者の地域参加が少なくなってきている
 - 高層階の人は引きこもりがち
 - 高齢世帯の実情が見えない（安否、困っていること）
 - 高齢化の実情を把握しているのが民生委員のみ
 - 自治会・民生委員の活動が見えない
 - 低所得、シングルマザー世帯の増加
 - 障害者のいる世帯との接点が少ない
 - 役員になるのが同じ人
 - 世代間において活動がうまく連動しない
 - 使用する階段が違うだけで全くの他人
 - オレオレ詐欺の被害が多い
- 他市町村から単身で転入する高齢者が多いので高齢単身世帯が増加

- 狭山台団地への入居基準が低いので生活困窮世帯の増加
- モラルの低下（ゴミ出しルールが守られていないなど）
- URの管理人機能の問題（入居者情報はもらえない）
- エレベーターのない集合住宅が多い
- 地域包括センターが地区外にある
- 自治体に対して行政の要望が多すぎる
- 変質者出没
- 災害時の課題が多い（階段を使った避難介助・安否確認・地区人口全員は収容できないなど）
- 高齢者、子ども、障害者が気軽に集まれる場所が少ない

〈ゆくゆく解決すべき〉

- 高齢単身世帯の増加
- 認知症で高齢単身世帯への対応
- 若い世代の世帯の減少
- 自治会加入の低下（特に他市町村から転入の高齢単身世帯）
- 自治会基盤が軟弱（取り組みが消極的）
- ゴミ出しのサポート（4～5階の住人、重たいもの）
- 関心が薄い

- バスの本数が減ってきている
- 車での移動に頼る
- 個人商店、飲食店が少ない
- 若い世代が楽しめる場所が少ない
- 子どもが遊べる設備が不十分
- 若い世代が結婚しない

※狭山台地区特有の課題

- 団地、集合住宅の空き部屋が多い
- 建物の老朽化

〈アンケート〉

1. 今回の意見交換会に参加してどう思いましたか？

色々な意見が聞けた

共通の課題が見えている人達がたくさんいるのがわかった

他者の意見の違いが聞けて参考になった

多くの意見や視点を知ることができた

自分の感じている地域の課題が他の方の意見と同じことが多く、改めて課題を認識することができた

みんながそれぞれ自分の地域を愛していることが分かった

自分が気になっていた課題を共有できてよかった

狭山市が抱えている課題が抽出できたと思う

2.あなたの住んでいる地域の課題は何だと思いましたか？

(入間川地区)

若い人が魅力を感じるものがない

空き家

つながり、交流の場が少ない、自治会加入率

子どもが少ない、絆が薄い

商店街の衰退

空き家、若い人が集まれる場所を作りたい

高齢者の孤立化、人とのつながり

地域間の交流が少ない、交通の便が悪い、市民交流スペースが少ない

(狭山台地区)

世代間交流が少ない

高齢化、若い世代と高齢者とのつながりが薄い

隣近所との付き合い

世代・団体間のコミュニケーション

高齢化と建物の老朽化

3.他の地域の課題についてどう思いましたか？

地域によって課題が違う

地域間の差が大きかった

緊急性のある課題が多かった

高齢者の課題が多かった

どの地域でも同じような課題があると感じた

若者が少ない、商店街が閉まっている

高齢化はどこでも同じだと感じた

気付いていない課題が出てきて勉強になった

4.課題の解決に向けて何が必要だと思いますか？

やる気をどう引き出すか

地域で話し合う場をつくる

自ら動くこと

たまり場の提供

色々な考えの人がいるが、何とか一つの方向へ向ける

地域住民の交流

市民全体が課題を知ること、考える機会を増やす

課題を地域で共有すること

さまざまな年齢と立場の方々との意見交換の場

情報の共有

行政も地域も繋がるのが大切

市民一人一人の認識と市民一人一人の意識改革

まず挑戦、はじめの一步が必要

挨拶を中心に、人と人との関係を強くする

共通の問題意識を持つ人とつながること

5.課題の解決に向けてあなたは何かができますか？

他地区の人と交流する。そして、地元に戻元する

住民の声を聞き、行動を起こす

子どもの居場所作り、子育て支援活動

自分でできることを整理して行動すること

1つ1つの課題を解決していくこと

地域のさまざまな活動に前向きに参加すること

考えるより、まず行動

今自分がやれることを一生懸命やる

挨拶をする、思っていることを行動にする

まず課題に向き合うこと

周りに関心を持ち、アンテナを向け、自分に何ができるかを常に考えていくこと

課題を発信すること

地域を知ること

地域で話しあう場を作る